

やまがた認知症カフェ通信 2023 3月号

令和5年3月15日発行 発行元／山形県認知症相談・交流拠点さくらんぼカフェ

やまがた110ネットワークを活用してみませんか？

みなさん【やまがた110（いちいちまる）ネットワーク】についてはご存知でしょうか。やまがた110ネットワークとは、登録者の携帯電話やパソコンに対して、電子メールで安全安心情報を提供するシステムのことです。配信項目は、

1. 事件手配情報
2. 特殊詐欺発生情報
3. 不審者情報
4. 行方不明者手配情報
5. 交通安全情報
6. 交通障害情報
7. 防災情報
8. 有害鳥獣出没情報
9. ポリスインフォメーション

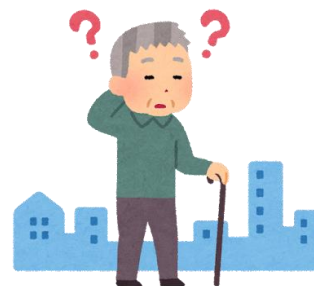
の9つあり、中でも認知症に関連の深い項目が「4. 行方不明者手配情報」です。認知症により徘徊するおそれのある高齢者の情報を、事前に家族の方が登録しておくことで、行方不明の予防や行方不明になった際に関係機関に迅速に情報を提供することができ、早期発見・保護につながります。

この機会に認知症の方のご家族はもちろん、ともに地域で支えていく者として、受信登録をしてみたいかがでしょうか。受信登録の方法は、山形県警察のホームページ (<https://www.pref.yamagata.jp/police/>) をご覧ください。どなたでも無料で登録できます。また、

- 普段見かけない高齢者が、キョロキョロと不安そうに歩いている
- 悪天候の中でもかまわずに歩いている
- 季節外れの服装で歩いている

といったように、普段の生活で「あれ？」と思ったら一声かけてみましょう。

そのちょっとしたひと声が、行方不明者を減らすことにつながります。



さくらんぼカフェより

さくらんぼカフェから旬の話題をお届けします！

～さくらんぼカフェ企画～臨床美術体験会を開催しました！

2月9日（木）にさくらんぼカフェにて講師の方を招いて、臨床美術体験会を開催しました。（当事者含む家族の方8名・支援者6名近隣住民3名の方が参加されました。）美術に対して、苦手意識を持つ人でも自然に自己表現ができるプログラムということで、今回のテーマは「梅の花の屏風」。画用紙を切って型抜きした花びらや葉っぱの形に、好きな絵具で色を付けていきます。形やデザインを考えたり、切り方を工夫したりと、皆さん試行錯誤しながら、色彩豊かで春を待つ気持ちが現れる作品に仕上がりました！！

最後に、仕上がった作品をみなさんで鑑賞しながら、作品についての感想を話したり、次回に向けての作品作りの提案等を話されたりと楽しい時間を過ごす事ができました。

さくらんぼカフェでは、皆さんの意見や要望を取り入れながらこれからも様々な企画を実施していきたいと思っています。

今後も、みなさんのご参加をお待ちしています！！



梅の花を想像しながら制作中



今回の作品「梅の花の屏風」です

「認知症カフェ情報交換会・学習会（オンライン）」の開催報告と今後に向けて

令和5年1月19日にZoomによる情報交換会を開催しました。参加された方よりアンケートのご協力を頂きましたので、その内容について報告します。

2015（平成27）年度から「認知症カフェ」が始まり8年経過の今年、初めて今後を見据えて、学習会を交えた情報交換会を試みました。今回は、オンラインにて16市町村47名の参加。講師の齋藤先生（さいとう脳神経・内科クリニック）からは今後の運営に希望を抱くアドバイスをいただき、「置賜のつどい」世話人である藤倉さんからは、本人が出かけたいと思う居場所づくりをテーマに事例報告をいただきました。また、フリートークでは、解決すべき課題と解決のための意見も交わされました。今後は、更に情報提供に努め、皆さんで共有していききたいと思います。

開催後のアンケートから、主な感想・意見等を紹介いたします。

- ★「学習会」必要。今回のような組み合わせも有効。
- ★今後もカフェ運営のスキル向上・学び合いをしたい。
- ★地域医療に携わる医師からの意見は貴重で参考になった。

また、誰でも安心して暮らせる地域としての通いの場「認知症カフェ」は、地域医療に携わる医療職（おれんじ Dr. 等）や多種多様な専門職からの理解・支援を得ていくことで、安心して出向く繋がり居場所となることの確認もできました。

今回の学習会の開催で得た貴重な意見を、人との繋がりや新たな出会いのある通いの場づくりに活かしていきたいでしょう。

アンケートのメッセージ欄より

「認知症という言葉が この町内から無くなるといいな」と、認知症傾向の方がカフェの帰りがけに呟かれていた「認知症カフェ」が独り歩きせず 通常の暮らしの中で自然と広がるといいな（ある運営者の言葉）

インフォメーション 「チームオレンジ」の立ち上げについて



現在県内各地で取り組み始めているチームオレンジは、認知症の人とその家族にとって今後重要な役割を担うと言われていています。そこで今回は、活動に取り組み始めている事例について金山町地域包括支援センターより報告を頂きましたのでご紹介します。

金山町は人口5,000人弱の小さな町です。「認知症になっても安心して住める町」を目指し、地域全体での見守り体制、高齢者の能力を活かせる場、認知症サポーターの具体的な活動について課題を感じていました。

そこで、チームオレンジが課題解決のカギになるのではと考え、立ち上げを検討しました。町内のボランティア団体を対象に、昨年秋にステップアップ研修を実施。約20人が認知症の知識を深め、接し方や救急処置法等を学びました。その上で、今後の認知症支援について説明し、ご理解いただき、サロンと配食サービスの2つの団体（既にある資源）がチームオレンジになりました。これまでの活動に、チームオレンジの要素をプラスして、サロンで認知症カフェを開催、認知症の方の得意分野（歌や写真等）で役割づくり、ボランティアと一緒に弁当配達等の活動を今後計画しています。

チームオレンジは、地域包括支援センターや認知症地域支援推進員にとっても心強い存在。お互いに協力・連携し金山町らしいチームを作りたいと思っています。

発行元：山形県認知症相談・交流拠点さくらんぼカフェ 山形県認知症コールセンター（山形市 県小白川庁舎内）

電話・来所相談・カフェオープン 月曜～金曜日 昼12時～午後4時

TEL 023-687-0387 FAX 023-687-0397 E-mail kazokunokai@camel.plala.or.jp

皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。